

精神的な発達ともの世界との関わり

1月～3月

すいすい組



冬の次期は、特にこのような都心の環境で生活していると、夏に比べ子ども達にとっては自然や季節への魅力に気付きにくくなってしまいうようにも感じます。しかしその中でも氷が張らないかとバケツや器に水を汲んでテラスに並べたり、公園の小さな池に溜まった落ち葉を掃除して集めたりと、子ども達はみんな貪欲に限られた環境の中でも自然や事象との関わりを楽しんでいました。その中で印象的であったのは、「落ち葉は地面に落ちるとパリパリなのに、水に落ちてるのは何でフニャフニャなんだろう？」と疑問を持っていた事です。大人は当たり前前に感じて気にも止めない事でも、子ども達は小さな発見を見逃さない目には、つくづく感心させられます。そして1年越しの自家製味噌も完成しました！「発酵」という事象は、大人は当たり前前に理解していても、子ども達にはむずかしいかもしれません。だけどきと、大人はもう忘れてしまった目と脳内の回路で、味噌と向き合っていたんだと思うと、そんな経験が出来る事に羨ましくも思います♪



釣りへの挑戦は、釣り堀なら釣れるだろうと市ヶ谷へ。とうとう自分達の手で鯉を釣り上げました！とうとう楽しかったようで、園長先生に直訴し再度釣り堀へ。前は1匹だったのに対し、今回は4匹も釣り上げました！力を合わせ網でもアシスト！もうすっかり釣り名人気取りの満足げな笑顔です♪